



くらしの

ハーモニー

ともに生き
ともに学び
ともにささえ合う

伏見エリア

ハーモニーこが

介護老人保健施設(長期・短期)／通所リハビリテーション／訪問リハビリテーション／居宅介護支援／法人本部事務所
〒612-8495 京都府京都市伏見区久我森ノ宮町3-6
Tel | 075-935-7100 Fax | 075-935-7102

ハーモニーこがなの家

認知症対応型デイ／サービス付き高齢者向け住宅／地域密着型特定施設
〒612-8495 京都府京都市伏見区久我石原町1-41
Tel | 075-334-5725 Fax | 075-334-5780

主な職種

介護士／相談員／介護支援専門員／看護師／保健師／理学療法士／作業療法士／医師／薬剤師／管理栄養士／栄養士／調理師／事務／介護サポート

法人概要

法人名 社会福祉法人くらしのハーモニー
設立 1994年
代表者 理事長 丸山 貴司
従業員数 約330名
法人本部 〒612-8495 京都府京都市伏見区久我森ノ宮町3-6
Tel | 075-935-7100 Fax | 075-935-7102
Mail | honbu@kurashino-harmony.or.jp
WEBサイト http://www.kurashino-harmony.or.jp

宇治エリア

ハーモニーこはた

通所介護／居宅介護支援／地域包括支援センター
〒611-0002 京都府宇治市木幡金草原43
Tel | 0774-33-8270 Fax | 0774-33-8284

ハーモニーやまはた

グループホーム／小規模多機能型居宅介護／訪問介護／定期巡回・随時対応型訪問介護看護
〒611-0002 京都府宇治市木幡北山畑23-1
Tel | 0774-38-2810 Fax | 0774-38-2811

ハーモニー東風館

サービス付き高齢者向け住宅
〒611-0002 京都府宇治市木幡金草原14-4
Tel | 0774-31-3535 Fax | 0774-31-3536



あなたの音を、 聞かせてください。

優しい人は、優しい音を
たのしい人は、たのしい音を
かしこい人は、かしこい音を
真面目な人は、真面目な音を
元気な人は、元気な音を

施設の利用者も、はたらく職員も、
みんなが自由にじぶんの音を奏で
重なり合って響くのが、
くらしのハーモニー。

溢れ出たハーモニーは地域を包み、
だれも取り残さない「生きる」をつくれます。

あなたの音を、聞かせてください。



最期まで地域で。 「楽しく生きる」をつくる福祉

くらしのハーモニーは、高齢者、障がい者、子どもたちなど、誰もが住み慣れた地域で、お互いに学び合い、困った時は助け合い、ともに暮らせる社会・地域をつくるために、福祉事業や地域活動を行なっています。

History

くらしのハーモニーが福祉生活協同組合設立発起人会として創業したのは1987年のことです。その当時、ケアが必要な高齢者は、自宅で家族が看るか、病院に収容されていました。まだ理想だった「住み慣れた地域で最期まで人間らしく暮らす」を現実にするために。生活に必要なけれどもないものを創り出そうと、知恵を出し合い、地域社会に働きかけ、社会資源をつくりかえる努力をしてきた挑戦の積み重ねが、わたしたちの歴史です。2006年に国が打ち出した「地域包括ケアシステム」の構築を、わたしたちは創業時から探求し、実践してきました。

1987年 生活援助ワーカー養成講座

ホームヘルパー制度が無かった時代に、生活援助ワーカーを養成。ワーカーが援助活動をした時間に応じて、将来ワーカー自身が援助を受けられる時間預託制度を導入しました。続けるうちに、一度入院すると利用者さんのADLが落ちる課題を発見。在宅での生活を支える専門的なりハビリ施設や、住みやすい家づくりのための住宅改修事業・コーポラティブハウスの計画が立ち上がりました。



1995年 住民主体の地域活動サポート拠点

地域に必要な活動をつくり出す福祉拠点として、ハーモニーこはたを開設。社会福祉法人としてのデイサービス事業・在宅介護支援事業も同時にスタートし、現在は地域包括支援センターになっています。地域に開かれたこの場所で、法人の内外を問わない協働が生まれ、地域通貨や地域新聞、通所介護の時間延長、有償ボランティア、移動支援、喫茶運営、配食サービスなどを立ち上げました。



2000年 ADLを落とさせないリハビリ施設

通所リハビリテーションと自宅復帰を目指した短期・長期入所ができるハーモニーこがを開設。入所棟は、療養管理・集団収容ではなく個々の生活の場であることを重視し、当時は制度外のサービスだったユニット型個室の間取りで建設しました。各ユニットに台所と居間を用意し、少人数ケアを行なっています。人生を取り戻すための施設を目指し、自力歩行を促すフットケアに注力しています。



2009年 リハビリ後を支援する住まい

リハビリ施設と両輪で自宅復帰を支える住まいとして、ハーモニーこがの家を開設しました。介護老人保健施設ハーモニーこがを使って自宅復帰を目指し、結果的にできなくても、自分らしく暮らすことをサポートしたいという思いから生まれたサービス付き高齢者向け住宅です。こがの長期/短期入所から移られる方を想定しているので、こがと同様、24時間365日ケアスタッフを配置しています。



2014年 小さな施設付きの地域密着型サービス

自宅と入居施設の間にあたる生活支援を目指して、グループホームと小規模多機能型居宅介護サービスを併せ持ったハーモニーやまはたを開設しました。2016年には、2004年に法定サービス外で自主的に挑戦した24時間コールサービスを復活させ、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の拠点になりました。地域交流センターを併設し、こはたとともにさまざまな地域活動が行なわれています。



2015年 設立20周年記念式典

「わたしたちは制度に従うのではなく、人間の権利と人の支え合いを基本にすること。自分らしい生活を実現するために、お金ではなく知恵を出し合い、一緒に汗をかくこと。できるだけ制約なく個々の暮らしが尊重できる在宅ケアを推進していくこと。」と、長田侃士前理事長が宇治市長をはじめとするご来賓を前に、法人の基本原則を語りました。



2017年 サードライフの場

地域で「サードライフを考える会」を立ち上げ、ケアが必要になってきたときに、早めに次の住まい方を考えることを提唱しました。その中から生まれてきたのが、「入居者どうしが自治的に支え合い、最期まで自分らしく住み続けられる住まい」をコンセプトにしたハーモニー東風館です。一般的なサ高住は、介護保険が使えるサービス付きですが、自立を重視し、あえてセットにしていません。



Future

多くの仲間による30年の挑戦により、必要なサービスが揃いました。基盤にあるのは、自由に自律的に自分らしい暮らしをつくる姿勢です。私たちはこれからも、「人間らしさとは?」「豊かさとは?」「目の前のこの人をどうしたらいい?」と本質を言葉にすることから始めます。それは、時代が変わっても機械化されない暮らしをつくる術。法人内外を問わず育ててきた、言葉を交わし思いを分かち合える関係性が、ハーモニーの財産です。

理事長 丸山 貴司



ひとりひとり、想いを持って働いています。

ハーモニーには、ユニフォームがありません。

私たちが大切にしたい個性や自由は、自分のためだけではなく、利用者・地域・職場の仲間のもでもあります。そんなあり方を確かめるキーワードが「ともに生きる」を略した“ともいき”。どんな人も排除しない、多様な人間が生きる現場で、職員たちは日々一度きりの経験を積み重ねています。

地域のかげはしになりたい

沼邊 真由美（2009年入職） ハーモニーこが／通所事業

私は今、3人の子どものハーモニーがある地域で育てています。子どもたちにとって、おじいちゃんおばあちゃんとの触れ合いは人間として育っていく上でとても大切だと思います。だから、保育園が休みでわたしが勤務のときには、職場にきて利用者の輪に混ぜてもらったりしています。それを受け入れてもらえる懐の深さありがたいです。住民のひとりとしても職員としても、地域の人どうしが助け合って、ひとりひとりの人生をよりよくしていこうというハーモニーの姿勢は大きな魅力。地域のつながりが薄れている中で、ハーモニーもわたしも、地域のかげはしでありたいと思っています。



自分の“ともいき”の幅を広げたい

森 康孝（2002年入職） ハーモニーこが／介護老人保健施設 介護部長

フリーターを卒業して入職した時、高い志はありませんでした。でも、ただ遅刻をしないで働いたことを評価してもらえた。2年で非常勤から常勤になり、そこから介護の仕事ってなんなんだろうと考えるようになりました。24時間生活をまわす入所棟は、夜中には少ない人数で多くの人を支えるハードな現場です。しんどくて、つい自分を優先したくなることもあるけれど、いつも問われてきた「誰のための仕事や」「利用者さんはどうしたいの?」という言葉が蘇ります。「介護の仕事をする」のではなく「その人のために支援する」というあり方や考え方を教えてもらってきたんだと実感します。これを、若い職員にも伝えたい。僕は、ハーモニーを人間として成長できる場所にしたいです。それが、理念である地域づくりにもつながっていくと思う。だから、若い人たちを成長に導き、仲間づくりができる自分になるために、誰も排除しない“ともいき”の幅を広げていきたいです。



人間していいんや

龜田 裕哉（2018年入職） ハーモニーやまはた／訪問事業

嚥下機能が落ちていても大好きなチャーハンが食べたい。最期まで自宅で暮らしたい。そういう自由を貫く訪問介護の利用者さんがいらっしゃいました。訪問したら、チャーハンを喉に詰まらせて転倒していたこともあります。その姿を見た時、「すごい。人間は、自分が思うように人間らしくしていいんや」と、何かが拓けました。それをきっかけに、諦めていた感情が表に出るようになり、まわりの職員さんに対してモヤモヤが湧き出してきました。言われたことに対して「そういうものなんだろうな」と受け止めるのではなく、「本当はこうしたほうがいいはず」と心が動くようになっていきます。



僕は人間が苦手でした

中山 敦貴（2018年入職） ハーモニーこが／介護老人保健施設 介護部

人間が好きとか明るいとか、ハーモニーが求める基本的な人格があるのかもしれないけど、僕は人間が苦手でした。それでも、職場が慣れ親しんだ生活の場になっていく居心地のよさを感じられたり、利用者さんに言ってもらった「ありがとう」がしみたり、お誕生日企画を利用者さんが泣いて喜んでくれて嬉しかったり、この仕事をやっていてよかったなと思える瞬間があります。完食しなくなった利用者さんがどうしたら食べてくれるか。限られた時間の中で、なんでもやってあげてしまうのではなく、利用者さんに自力でリハビリしてもらうにはどうしたらいいか。リーダーは日々の課題に対して、教えるのではなく「君はどう思う?」と聞いてくれます。

課題を見つけて、みんなで解決します

澤井 由実（2004年入職） 東宇治北地域包括支援センター／センター長

地域包括支援センターは、地域の課題を見つけ、ネットワークをつくり、みんなで解決策を考え実行する拠点です。デイサービスの利用者さんにアザがあったら、虐待を案じて宇治市と対応策を話し合います。市が掲げる「認知症に優しいまちづくり」を具現化するため、認知症についての啓発講座を聞いて意識改革に取り組みます。坂が多い新興住宅街では移動がしにくく人のつながりが薄いという課題を見つけたら、見守りの体制をつくります。この仕事を続けるうちに、道を歩けば、顔見知りにならなくなっていき、地域に人と人のつながりの網があり、広がっていく結び目にハーモニーがいることが感じられて嬉しく思っています。



リーダーの本音に救われました

稲津 安華（2019年入職） ハーモニーこが／介護老人保健施設 介護部

ハーモニーへの入職を決めたのは、実習中に目にしたできごとがきっかけです。転倒リスクがある利用者さんが立ち上がって歩き回っていたときに、歩くことを止めるのではなく、「歩くのはいいことだから」と、安全に歩けるようにサポートしている相談員さんがいました。そういう考え方ができるのって素敵やなと思って、目標にしています。それでも、認知症の利用者さんに介助を拒否されたりすると、つらいです。でも、ある夜勤のときに、ユニットリーダーが「僕、利用者さんに優しくできないことあんねん」と腹を割って話してくれたんです。それで、「優しくしたいけどできないという気持ちはみんなにあるんやな」と思えて、頑張る気持ちになれました。

この目で見たい幸せの風景をつくりたい

上埜 佳代子（1995年入職） 法人本部／人事・研修担当

年配の祖母が寝ていて、その足元で弟がテレビを見ている。我が家の原風景が脳裏に焼きついています。あの幸せな風景をたくさんつくりたいと思って、「最期まで地域で」という理念を持つハーモニーに入りました。ケアに正解はなく、利用者さんから学び、見出ししてきました。「娘に「うんこたれ」と言われた」とさめざめと涙を流す98歳の利用者さんには、プライドを傷つけないケアのあり方を教えていただきました。孤立無援だった利用者さんに5年後に偶然再会し、「あなたがいなかったら生きていない」と言っていた時、まだまだ助けを待つ人がいるのだと知り、私たちが仕事は、新しく開拓し、試し続ける仕事です。

